

令和6年度 事業報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

学校法人 山村学園

1. 法人の概要

2. 財務の概要

3. 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

4. 山村学園短期大学

1. 法人の概要

(1) 基本情報

学校法人 山村学園
(法人本部) 埼玉県川越市田町 1 6 番地 2

(2) 建学の精神 (校訓)、教育目標

「質実」 素直な気持ちを持ち、感謝の気持ちを持って働く人間を育成する。
「英知」 高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。
「愛敬」 人を慈しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。
(教育目標)
「地域社会に貢献できる、心豊かで有為な人材の育成」

(3) 学校法人の沿革

昭和26年3月1日	学校法人山村学園として設置認可
昭和26年4月1日	入間郡坂戸町に山村女子高等学校を開校 家庭科を設置
昭和33年4月1日	山村女子高等学校に商業科を設置
昭和34年7月1日	川越市にあらたに山村女子高等学校設置認可
昭和34年11月3日	坂戸町の既設の山村女子高等学校を山村第二女子高等学校と校名改称、同校商業科は川越市の山村女子高等学校に移設
昭和35年4月1日	山村女子高等学校開校
昭和43年4月1日	山村女子高等学校に普通科を設置
昭和44年4月1日	山村第二女子高等学校家庭科を服飾デザイン科に改称
昭和52年1月5日	山村第二女子高等学校に普通科設置認可
昭和52年4月1日	山村第二女子高等学校に普通科を設置
昭和63年12月22日	山村女子短期大学設置認可
平成元年4月1日	山村女子短期大学開学(国際文化科)
平成3年4月1日	山村第二女子高等学校を山村国際女子高等学校に校名改称
平成11年4月1日	山村国際女子高等学校を山村国際高等学校に校名改称(男女共学化)
平成13年8月1日	山村女子短期大学(国際文化科)の改組転換によりコミュニケーション学科設置
平成13年12月20日	山村女子短期大学に保育学科設置認可
平成13年3月31日	山村国際高等学校服飾デザイン科を廃止
平成14年4月1日	山村女子短期大学を山村学園短期大学に校名改称、並びに保育学科新設(男女共学化)
平成17年3月31日	山村女子高等学校商業科を廃止
平成17年3月31日	山村学園短期大学国際文化科を廃止
平成20年4月1日	山村女子高等学校を山村学園高等学校に校名改称(男女共学化)
平成24年4月1日	山村学園短期大学コミュニケーション学科をキャリア コミュニケーション学科に名称変更
平成27年3月31日	山村学園短期大学キャリア コミュニケーション学科を廃止
平成31年4月1日	山村学園短期大学保育学科を子ども学科に名称変更

(4) 設置する学校・学部・学科等・所在地

山村学園短期大学	子ども学科	埼玉県比企郡鳩山町石坂 6 0 4
山村学園高等学校	全日制課程（普通科）	埼玉県川越市田町 1 6 - 2
山村国際高等学校	全日制課程（普通科）	埼玉県坂戸市千代田 1 - 2 - 2 3

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和 7 年 5 月 1 日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
山村学園短期大学	子ども学科	100	47	200	107
山村学園高等学校	普通科	440	441	1,320	1,389
山村国際高等学校	普通科	280	271	840	843

(6) 収容定員充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

学校名	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
山村学園短期大学	0.69	0.67	0.59	0.54	0.54
山村学園高等学校	0.98	1.05	1.15	1.16	1.05
山村国際高等学校	1.13	1.12	1.15	1.12	1.00

(7) 役員の概要

(令和7年5月1日現在)

<理事定数：7人 現員：7人、監事定数2人 現員2人>

役 員	職 名	氏 名	常勤・非常勤の別	選任区分	選任条項	就任年月日	現 職 等
	理 事	おか 岡 実	非常勤	理事長	第5条第2項	H20. 4. 1 2008. 4. 1	
				理事会選任	第6条第1項第3号	R2. 6. 16 2020. 6. 16	
	〃	の ぐち かず お 野 口 一 夫	常 勤	学長	第6条第1項第1号	H24. 4. 1 2012. 4. 1	山村学園短期大学 学長
	〃	か とう ひで あき 加 藤 秀 昭	常 勤	校長	第7条第1項第1号	R7. 4. 18 2025. 4. 18	山村学園高等学校 校長
	〃	なか やま たつ ろう 中 山 達 朗	常 勤	評議員会選任	第6条第1項第2号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	山村国際高等学校 校長
	〃	やま むら しげる 山 村 滋	非常勤	評議員会選任	第6条第1項第2号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	※学外者
	〃	やま ぐち いち ろう 山 口 一 郎	非常勤	理事会選任	第6条第1項第3号	R3. 4. 1 2021. 4. 1	※学外者
	〃	ふじ の せい た 藤 野 清 太	非常勤	理事会選任	第6条第1項第3号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	※学外者
	監 事	い とう つかさ 伊 藤 司	非常勤	理事長選任	第7条第1項	R6. 1. 10 2024. 1. 10	司法書士
	〃	こはやし まつた ろう 小林 松太郎	非常勤	理事長選任	第7条第1項	R2. 6. 16 2020. 6. 16	

①非業務執行理事等との責任限定契約の状況

寄附行為第60条（責任限定契約）に基づき、非業務執行理事（山村 滋氏、山口一郎氏及び藤野清太氏の各氏）及び監事（伊藤 司氏及び小林松太郎氏の両氏）との責任限定契約を締結しております。

②役員等を被保険者として加入している役員賠償責任保険契約の状況

理事会の決議に基づき、役員賠償責任保険に加入しております。

ア) 保険会社 三井住友海上火災保険株式会社

イ) 被保険者(無記名式) 学校法人山村学園の理事7名、監事2名、評議員（理事兼務を除く）9名

ウ) 保険の名称 学校法人向け役員賠償責任保険

エ) 支払事由及び支払限度額

・支払事由

被保険者である理事、監事、評議員がその地位に基づき行った行為（不作為を含む）に起因して損害賠償がなされたことにより、被保険者が被る損害賠償金や訴訟費用等。

・支払限度額

3億円

(8) 評議員の概要

(令和7年5月1日現在)

<評議員定数：15人 現員14人>

評 議 員	氏 名	選任区分	選任条項	就任年月日	現 職 等
	の ぐち かず お 野 口 一 夫	学長	第22条第1項第1号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	山村学園短期大学 学長
	なか やま たつ ろう 中 山 達 朗	法人の職員	第22条第1項第2号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	山村国際高等学校 校長
	やま むら まさ こ 山 村 昌 子	法人の職員	第22条第1項第2号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	山村学園短期大学 事務局次長
	わた なべ とし ひこ 渡 辺 利 彦	法人の職員	第32条第1項第1号	R7. 4. 18 2025. 4. 18	山村学園高等学校 教頭
	く どう じゅん 工 藤 潤	法人の職員	第22条第1項第2号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	山村国際高等学校 教頭
	おか みのる 岡 實	理事の互選	第22条第1項第3号	R2. 6. 16 2020. 6. 16	
	やま ぐち いち ろう 山 口 一 郎	理事の互選	第22条第1項第3号	R3. 4. 1 2021. 4. 1	
	さか た まさ え 坂 田 正 枝	卒業生	第22条第1項第4号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	
	の じま やす こ 野 島 康 子	卒業生	第22条第1項第4号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	
	いし やま よし こ 石 山 佳 子	卒業生	第22条第1項第4号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	
	はぎ わら もと お 萩 原 基 雄	卒業生	第22条第1項第4号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	あたご保育園 園長
	やま むら しげる 山 村 滋	学識経験者	第22条第1項第5号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	
	くろ さわ かず ゆき 黒 澤 一 幸	学識経験者	第22条第1項第5号	R6. 1. 10 2024. 1. 10	
	た なか ひさ こ 田 中 久 子	学識経験者	第22条第1項第5号	R6. 4. 1 2024. 4. 1	

(9) 理事選任機関の概要

理事選任機関 理事会

構成員 全ての理事

理事の選任 理事選任機関が理事を選任するときは、あらかじめ、評議員会の意見を聴かなければならない。

(10) 教職員の概要

教職員の本務・兼務別の人数

(令和7年5月1日現在)

区 分	教 員		職 員		合 計
	本務	兼務	本務	兼務	
法人本部	0	0	5	0	5
山村学園短期大学	11	18	5	7	41
山村学園高等学校	85	39	10	5	139
山村国際高等学校	56	25	5	3	89
計	152	82	25	15	274

2. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産	6,515,415	6,503,668	6,482,016	6,546,206	6,415,838
有形固定資産	5,614,369	5,471,279	5,388,046	5,480,253	5,331,722
特定資産	761,821	896,821	961,821	936,821	956,821
その他の固定資産	139,225	135,568	132,149	129,132	127,295
流動資産	836,578	867,245	807,846	787,233	825,056
資産の部 合計	7,351,994	7,370,914	7,289,862	7,333,439	7,240,894
固定負債	1,017,396	923,464	833,332	902,375	806,882
流動負債	500,076	613,640	517,829	538,928	539,130
負債の部 合計	1,517,472	1,537,104	1,351,160	1,441,303	1,346,011
基本金	9,637,810	9,714,965	9,654,166	9,838,425	10,009,248
繰越収支差額	△ 3,803,288	△ 3,881,155	△ 3,715,464	△ 3,946,288	△ 4,114,365
純資産の部 合計	5,834,522	5,833,810	5,938,702	5,892,136	5,894,883
負債及び純資産の部 合計	7,351,994	7,370,914	7,289,862	7,333,439	7,240,894

②事業活動収支計算書関係

事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,235,945	1,128,647	1,211,571	1,293,339	1,307,044
	手数料	62,413	82,424	77,721	66,578	61,335
	寄付金	10,560	10,280	34,873	23,431	14,386
	経常費等補助金	912,745	931,689	974,953	987,368	992,697
	付随事業収入	36,044	32,161	30,336	41,613	44,619
	雑収入	82,612	127,605	62,045	124,743	131,444
	教育活動収入 計	2,340,319	2,312,806	2,391,498	2,537,072	2,551,524
	事業活動支出の部					
	人件費	1,533,727	1,576,948	1,497,015	1,634,498	1,690,036
	教育研究経費	513,180	577,114	639,779	678,534	650,501
	管理経費	191,691	186,391	222,591	237,839	231,797
	徴収不能額等	0	0	0	1,493	0
	教育活動支出 計	2,238,598	2,340,454	2,359,385	2,552,364	2,572,333
	教育活動収支差額	101,721	△ 27,648	32,114	△ 15,292	△ 20,810
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	1	1	1	1	22
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入 計	1	1	1	1	22
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	7,056	6,386	5,940	5,600	6,078
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出 計	7,056	6,386	5,940	5,600	6,078
	教育活動外収支差額	△ 7,055	△ 6,385	△ 5,939	△ 5,600	△ 6,056
経常収支差額		94,666	△ 34,033	26,175	△ 20,892	△ 26,865
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	85
	その他の特別収入	47,835	33,326	80,525	39,387	30,362
	特別収入 計	47,835	33,326	80,525	39,387	30,447
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	0	0	1,375	64,723	832
	その他の特別支出	47	5	433	337	3
	特別支出 計	47	5	1,808	65,060	834
	特別収支差額	47,788	33,321	78,717	△ 25,673	29,612
基本金組入前当年度収支差額		142,454	△ 712	104,892	△ 46,565	2,747
基本金組入額合計		△ 232,170	△ 99,843	△ 119,024	△ 275,595	△ 172,651
当年度収支差額		△ 89,716	△ 100,555	△ 14,132	△ 322,160	△ 169,904
前年度繰越収支差額		△ 3,713,572	△ 3,803,288	△ 3,881,155	△ 3,715,464	△ 3,946,288
基本金取崩額		0	22,689	179,822	91,336	1,827
翌年度繰越収支差額		△ 3,803,288	△ 3,881,155	△ 3,715,464	△ 3,946,288	△ 4,114,365
(参考)						
事業活動収入 計		2,388,155	2,346,133	2,472,025	2,576,459	2,581,993
事業活動支出 計		2,245,701	2,346,845	2,367,133	2,623,025	2,579,246

③資金収支計算書関係

資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収 入 の 部	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
学生生徒等納付金収入	1,235,945	1,128,647	1,211,571	1,293,339	1,307,044
手数料収入	62,413	82,424	77,721	66,578	61,335
寄付金収入	23,655	23,373	69,188	48,686	42,347
補助金収入	946,544	951,921	1,020,943	1,001,500	995,095
資産売却収入	0	0	0	11,900	85
付随事業・収益事業収入	36,044	32,161	30,336	41,613	44,619
受取利息・配当金収入	1	1	1	1	22
雑収入	82,615	127,605	62,045	122,240	131,447
借入金等収入	0	30,000	48,000	200,000	5,000
前受金収入	232,439	290,647	263,147	220,551	228,657
その他の収入	980,930	885,774	913,133	1,024,339	1,054,861
資金収入調整勘定	△ 306,966	△ 365,437	△ 373,726	△ 382,076	△ 337,732
前年度繰越支払資金	771,660	744,827	734,126	723,254	668,141
収入の部合計	4,065,279	3,931,943	4,056,484	4,371,925	4,200,921

(単位：千円)

支 出 の 部	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
人件費支出	1,537,324	1,578,532	1,501,399	1,635,362	1,689,953
教育研究経費支出	332,520	390,809	448,239	483,757	412,774
管理経費支出	142,576	138,864	177,146	189,007	218,095
借入金等利息支出	7,056	6,386	5,940	5,600	6,078
借入金等返済支出	113,948	116,348	124,148	134,452	127,771
施設関係支出	40,030	62,656	62,894	383,484	65,867
設備関係支出	103,157	24,440	89,326	26,274	36,034
資産運用支出	140,000	135,000	65,000	55,000	70,000
その他の支出	971,683	883,468	913,609	917,491	998,347
資金支出調整勘定	△ 67,843	△ 138,686	△ 54,472	△ 126,645	△ 131,804
翌年度繰越支払資金	744,827	734,126	723,254	668,141	707,806
支出の部合計	4,065,279	3,931,943	4,056,484	4,371,925	4,200,921

④活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入 計	2,339,381	2,312,806	2,391,498	2,534,569	2,551,524
	教育活動資金支出 計	2,012,374	2,108,200	2,126,352	2,307,790	2,320,819
	差 引	327,007	204,606	265,147	226,779	230,705
	調整勘定等	3,807	76,282	△ 39,789	△ 42,120	9,716
	教育活動資金収支差額	330,814	280,888	225,357	184,660	240,421
施設整備等活動による資金収支						
	施設整備等活動資金収入 計	57,832	33,326	80,305	101,287	50,444
	施設整備等活動資金支出 計	253,187	192,096	187,220	434,759	141,901
	差 引	△ 195,354	△ 158,770	△ 106,915	△ 333,472	△ 91,458
	調整勘定等	△ 33,799	11,565	△ 23,219	35,805	10,237
	施設整備等活動資金収支差額	△ 229,153	△ 147,205	△ 130,134	△ 297,666	△ 81,221
小計（教育活動資金収支差額 ＋施設整備等活動資金収支差額）		101,661	133,683	95,224	△ 113,007	159,200
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入 計	847,715	824,323	829,628	1,091,261	920,957
	その他の活動資金支出 計	976,208	968,707	935,724	1,033,367	1,040,493
	差 引	△ 128,493	△ 144,384	△ 106,096	57,894	△ 119,536
	調整勘定等	0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	△ 128,493	△ 144,384	△ 106,096	57,894	△ 119,536
支払資金の増減額 (小計＋その他の活動資金収支差額)		△ 26,833	△ 10,701	△ 10,872	△ 55,113	39,665
前年度繰越支払資金		771,660	744,827	734,126	723,254	668,141
翌年度繰越支払資金		744,827	734,126	723,254	668,141	707,806

3. 学校法人の業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備及び運用状況の概要

(1) 関係する決議の概要

本法人は、令和6年12月6日、理事会において、理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、本法人の基本方針を以下のとおり決定しております。

(2) 体制整備及び運用状況の概要

1. 経営に関する管理体制

- ① 理事会は、定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令・寄附行為に従い、必要な事項については評議員会の意見を聴いたうえで、業務執行上の重要事項を審議・決定するとともに、理事の職務執行を監督する。
- ② 寄附行為並びに「寄附行為施行細則」に基づき、理事会及び評議員会の役割、権限及び体制を明確にし、適切な理事会及び評議員会の運営を行う。
- ③ 「理事の職務及び決裁権限規程」に基づき、業務を執行する理事の担当業務を明確化し、事業運営の適切かつ迅速な推進を図る。
- ④ 理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為及び「文書管理規程」に基づき、適切に作成、保存及び管理する。

2. リスク管理に関する体制

- ① 「リスク管理規程」を整備し、リスク対応方法等を明確にしたうえで、理事長を最高責任者とするリスク管理体制を構築するものとする。
- ② 本法人の経営に重大な影響を及ぼすおそれのある重要リスクについては、理事会で審議し、必要に応じて対策等の必要な事項を決定する。

3. コンプライアンスに関する管理体制

- ① 理事及び職員の職務執行が法令並びに寄附行為に適合することを確保するための体制を整備するため、「コンプライアンス推進規程」を定める。
- ② 本法人のすべての役職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するため、不正防止等に関わる役職員への教育及び啓発活動を継続して実施、周知徹底を図る。
- ③ 本法人の内外から匿名相談できる通報窓口を常設して、不正の未然防止を図るとともに、速やかな調査と是正を行う体制を推進する。通報窓口又は監事に対しコンプライアンスに関する相談又は違反に係る通報をしたことを理由に、不利益な取扱いを行わない。

4. 監査環境の整備(監事の監査業務の適正性を確保するための体制)

- ① 監事が職務を補助する職員(以下「補助職員」という。)を置くことを求めた場合、法人は、監事の求めを尊重し、補助職員を配置することを検討するものとする。

- ② 補助職員は、監事の指揮命令下で監事の職務を補助する職務を行い、監事以外からの指揮命令を受けないものとする。
- ③ 理事及び職員等は、職務執行状況等について、監事又は監事の指示を受けた補助職員が報告を求めた場合、速やかにこれに応じるものとする。
- ④ 理事又は職員等は、本法人に著しい損害を与えるおそれのある事実又は法令、寄附行為に著しく違反する行為等を発見したときは、直ちに理事長及び監事に報告する。
- ⑤ 理事又は職員等は、前号の報告を行ったことを理由として不利益な取り扱いを受けないものとする。
- ⑥ 監事が職務の執行について本法人に対して費用の前払又は償還、債務の債権者に対する弁済の請求をしたときは、本法人は、当該請求に係る費用又は債務が当該監事の職務の執行に必要でないことを証明した場合を除き、速やかにこれに応じるものとする。
- ⑦ 本法人は以上の監査環境の整備について、「監事監査規程」に定めるものとし、同規程の改廃については監事と協議を行うものとする。

5. 本方針の改廃

本方針に見直しの必要性が生じた場合は、理事会の決議により改正するものとする。

4. 山村学園短期大学

- 1 概要
- 2 建学の精神、教育目標、三つのポリシー
- 3 18歳人口
- 4 学生募集
- 5 学習支援
- 6 求人・就職
- 7 本学への評価
- 8 行政の施策
- 9 財務状況
- 10 令和6年度（2024年度）事業計画一覧表

1. 概要

令和7年度入試において入学予定者が48名（うち、職業訓練生7名）前年度比+10名となった。しかしながら、目標としていた70名に届かず、財務状況は相当厳しい状況である。収容定員の50%を切りかねない状況である。

教育面では、満足度調査、授業評価、就職先からの評価などは、一定レベル以上であり、引き続き充実が図られているが、授業アンケート及び卒業時に実施する満足度調査においては、冷暖房設定温度、Wi-Fi設備充実に関する指摘が複数見られた。

令和6年度においても、私立大学等改革総合支援事業補助金制度、高等教育無償化、幼児教育の無償化への対応に重点的に取り組んだが、私立大学等改革総合支援事業補助金では、タイプ3の採択を逃し、補助金を獲得することができなかった。

学習成果や三つのポリシーの見直しについては、例年通り点検を行い、科目名等の微修正を行った。

就職に関しては、保育者のニーズが高く、依然高い就職率を維持している。この傾向は、今後数年間は続くものと思われる。

2. 建学の精神、教育目標、三つのポリシー

(1) 建学の精神、教育目標

山村学園短期大学 教育方針

○校訓（建学の精神の流れをくむシンボリックなもの）

「質実」 素直な気持ちを持ち、感謝の気持ちを持って働く人間を育成する。

「英知」 高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。

「愛敬」 人を慈しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。

○寄附行為

「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、社会の発展に有為な人材を育成することを目的とする。」

○短大規則第1条第2項

「本学は、学校教育法に基づき、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かな人材を育成し、もって広く社会の発展に寄与することを目的とする。」

○短大規則第1条第3項

「保育学科においては、高い保育の専門性と豊かな人間性を兼ね備え、地域社会に貢献できる骨太な幼稚園教諭・保育士の養成と、その基礎となる教育研究の推進を目的とする。」

(2) 山村学園短期大学子ども学科 3つのポリシー

①ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

子ども学科では、建学の精神（質実・英知・愛敬）、学則にある短期大学及び子ども学科の目的に則り、学則第43条（卒業）に示す所定の教育課程を修め、66単位以上を累積GPA一定以上の成績で修得し、以下のような知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を備えた者に対し、その卒業を認定し短期大学士の学位を授与します。

（知識・技能）

- ・ 保育者としての専門的知識・技能
- ・ 社会人として必要な教養・知識

（思考力・判断力・表現力）

・ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、職業や社会における諸問題を自ら発見、分析、解決方法について
考察する力、さらに自分の考えを他者に口頭、文章、あるいは身体をもつて的確に表現する力

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

- ・ 保育への情熱と使命感を持って社会に貢献しようとする積極的な態度
- ・ 人や自然を深く愛し、慈しむ態度
- ・ 社会人として必要なマナー・常識・態度

②カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

子ども学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に示した資質・能力・態度を総合的に備えた学生を育成するために、以下のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づいて教育課程を編成するとともに、学生の学修学習過程や学修方法が明示された教育内容、教育方法をもって授業を実施し教育評価を行います。

（教育内容）

- ・ 保育者としての専門的知識・技能をはじめとして、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を育むため、教養科目及び専門科目を科目内容の分野や関連性から記号・番号をつけ、体系的、系統的をふまえて配置し、学生が学びの全体像や科目間の関連を容易に理解できるようにカリキュラムツリーを作成します。
- ・ 保育者としての使命感や態度、社会貢献への積極的な姿勢、人や自然を深く愛し、慈しむ態度等を涵養するため、学内外の自然・社会環境を利用した体験型の学習を取り入れた科目を配置します。
- ・ 1年次には、建学の精神を理解し、大学における学びへの適応を速やかにするとともに、社会性や学ぶ力の基礎を育むため「子ども学演習Ⅰ・Ⅱ」・「キャリアアップ・セミナー」

ーⅠ・Ⅱ」を、2年次には主体性、協働性、対話性、人間力を高めるため「子ども学ゼミナールⅠ・Ⅱ」「キャリアアップ・セミナーⅢ・Ⅳ」をそれぞれ配置します。

・保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状の取得に関する科目による幼稚園教諭・保育士養成課程を編成するとともに、その他保育者として資質向上に資する資格が取得できる科目を配置します。

（教育方法）

・シラバスには、各授業科目の到達目標や毎回の授業の予習・復習内容などを具体的に示すことで、学生の主体的で効果的な学習を支援します。

・授業科目の内容に応じて、アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、ゼミナール形態等を取り入れ、学生自身の問題発見、資料収集と分析、解決方法の検討、討議・発表の機会を多く提供することに努めます。

・保育の内容や保育技術、実習準備に関する科目については、少人数編成で効果的に学習できる授業展開とします。

・免許・資格取得のための現場実習や現場体験の学習を段階的に行い、これらを通じて保育者としての資質・能力・態度の修得に資するようにします。

（評価）

・単位認定にあたっては、シラバスに開示する成績評価と基準によって厳格な成績評価を行うとともに、半期ごとにGPAによって学修成果の達成状況を評価し、一定のGPAをクリアするよう学修支援・指導を行います。また、学生は学年ごとに自身の学習ポートフォリオを作成し、自らの学びの成果を自己点検・自己評価することができます。

・授業アンケートを半期ごとに実施し、個々の授業内容や方法の改善やカリキュラム編成の改善を検討します。

③アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

子ども学科では、建学の精神（「質実」、「英知」、「愛敬」）を理解するとともに、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かで広く社会の発展に寄与できる人材の育成方針に共感する、次のような者の入学を期待しています。

（知識・技能）

・幼児教育・保育の学習に必要十分な基礎学力を備えている。

・音楽、造形、言語・身体などの表現技術などに親しんでいる、あるいはこれらを今後学ぶにふさわしい豊かな感性をもっている。

・社会人として必要な教養・知識を身につけようとする姿勢をもっている。

（思考力・判断力・表現力）

・学びの基礎となる「読む、書く、聞く、話す」能力や自ら課題を発見し、考え、判断し、行動できる力を高めようとする姿勢をもっている。

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

・幼児教育・保育に情熱と使命感をもって取り組むことができる。

- ・人や動植物、自然に対する深い愛情を持っている。
- ・笑顔、挨拶、言葉づかいなど基本的な対人関係能力を備えている。

3. 18歳人口



表は、川越市、東松山市、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、富士見市、ふじみ野市、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町の令和6年1月1日付けの18歳人口とその後の予想値である。令和6年と令和7年を比較すると-0.2%の微減であるが、令和6年度と令和16年度では、10.2%の減少となる。ただし、この図は人口流入の予測値は反映されておらず、単純に年齢別の人口を拾った数値である。令和6年度から令和13年度までは、比較的緩やかな減少であるが、それ以降は減少率が高くなっている。

4. 学生募集

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
入学者数	74	65	70	53	58	47

表は、令和元年度からの保育学科合格者数を示したものである。令和7年度の入学者数は48名と令和4年度から減少傾向が続いている。

高校名	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	目標値 過去9年平均
山村国際高校	6	10	8	7	3	2	10	7.3
川越西高校	6	5	6	5	4	1	3	4.4
小川高校	5	5	5	1	3	3	2	4.1
県立越生	5	1	2	1	1	1	2	1.5
松山女子高校	3	3	1	2	1	2	0	1.9
武蔵越生	3	1	0	6	1	1	0	1.9
寄居城北	3	4	2	1	0	2	0	2.2
新座柳瀬	3	0	0	0	0	0	0	0.7
鴻巣女子高校	3	2	0	3	1	1	0	1.7
筑波大学付属坂戸高校	2	1	1	0	0	0	0	0.6
埼玉平成高校	2	1	0	1	2	0	1	1.0
川越初雁高校	2	1	0	0	0	0	0	0.5
狭山清陵高校	2	1	2	0	0	0	0	0.5
滑川総合高校	1	3	6	8	6	6	4	5.1
秋草学園高校	1	0	1	0	1	0	0	1.0
鳩山高校	1	2	1	2	0	0	0	1.4
富士見高校	1	1	0	2	0	0	0	0.7
飯能南	1	1	1	0	0	0	0	0.4
飯能高校	1	1	1	0	0	0	0	0.6
朝霞西	1	0	0	1	0	0	0	0.3
東京成徳大学深谷高校	0	2	1	0	1	0	1	1.5
鶴ヶ島清風高校	0	1	5	6	1	2	4	2.7
川越総合高校	0	2	1	0	3	3	1	1.6
山村学園高校	0	3	0	3	1	3	1	1.8
坂戸西高校	0	2	0	5	1	1	0	2.4
志木高校	0	1	0	1	0	1	0	1.0
豊岡	0	0	0	0	0	0	0	0.3
ふじみ野	0	0	0	1	1	1	1	0.5
市立川越	0	0	0	0	0	2	0	0.4
伊奈総合学園高校	0	0	0	0	0	0	0	0.2
誠和福祉高校	0	0	0	0	0	0	0	0.1
日高高校	0	0	0	1	0	3	0	0.6
本庄第一	0	0	1	0	0	0	0	0.5
正智深谷高校	0	0	1	0	0	0	0	0.2
大宮武蔵野高校	0	0	0	0	0	0	0	0.1
朝霞高校	0	1	0	1	0	0	0	0.2
西武台	0	0	0	0	0	0	0	0.0
深谷商業高校	0	0	0	0	0	0	0	0.0
狭山経済	0	0	0	0	0	0	0	0.1
秩父農工科学	0	0	1	1	0	2	0	0.7
川越南	0	0	1	0	0	1	0	0.3
合計	52	55	48	59	31	38	30	5.3

左の表は、主な高校別入学者数である。本学の特徴として、ひとつの高校から複数名が入学する傾向があるが、令和7年度入試では、5名を超える高校は、山村国際高校のみであった。

左記以外に福島県立白河高校1名、松山高校1名、清和学園2名、霞が関高校2名、朝霞高校1名、狭山経済高校1名、芸術総合高校1名がいる。

資料請求数・オープンキャンパス参加者数・入学者数

	R1	R1 割合	R2	R2 割合	R3	R3 割合	R4	R4 割合	R5	R5 割合	R6	R6 割合
資料請求数	968	100%	918	100%	714	100%	681	100%	610	100%	610	100%
参加者人数（延べ数）	278	29%	237	26%	307	43%	189	28%	186	30%	138	23%
参加者人数（1、2、3年生以上の実質数）	182	19%	144	16%	169	24%	127	19%	118	19%	91	15%
参加者人数（3年生以上のみの実質数）	98	10%	105	11%	103	14%	83	12%	74	12%	54	9%
次年度志願者数	57	6%	57	6%	70	10%	53	8%	59	10%	48	8%

次年度志願者数/参加者人数（3年生以上のみの実質数） 58% 54% 68% 64% 80% 89%

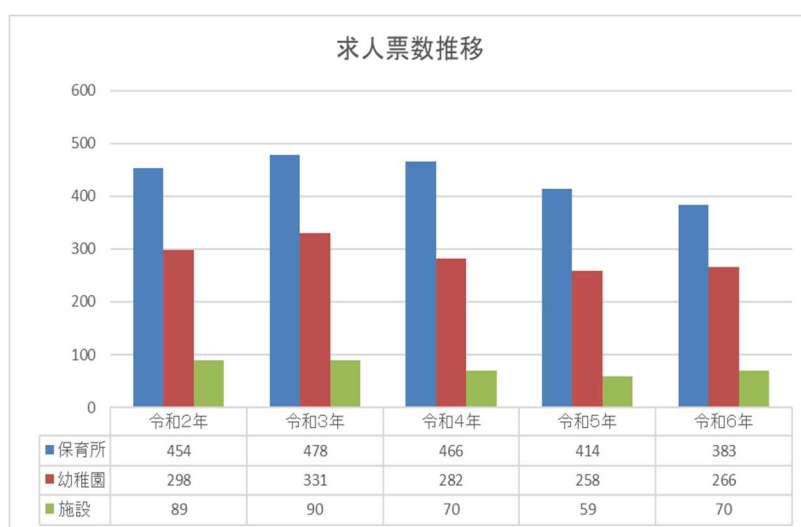
上の表は、オープンキャンパス（年に20回程度）の参加状況と次年度志願者数をまとめたものである。昨年度は、オープンキャンパスに参加した3年生以上の受験生のうち80%が実際に志願していたが、令和6年度については89%（昨年度比9%増）と高い数字となった。高校生全体の傾向として、オープンキャンパスに行って比較検討するというよりは、ある程度決めたところがあって、そこへ行って確かめるといった傾向が見られる。一方、参加者数自体は減少傾向にあり、入学者数全体の伸びにはつながらなかった。

5. 学習支援

	令和2年度生 73名入学 →68名	令和3年度生 65名入学 →61名	令和4年度生 70名入学 →66名	令和5年度生 52名入学 →49名	令和6年度生 58名入学 →56名
1年時退学者	1	3	4	3	2
2年時退学者	4	1	0	1	—
退学者数合計	5	4	4	4	2

左の表は、退学者数を表したものである。令和6年度は、入学者58名のうち、2名の退学者が予想される。精神的な疾患、進路変更が退学理由である。

6. 求人・就職



左の表は、求人票数の推移をまとめたものである。令和6年度の求人票数（R7年2月現在）を見ると、若干減少傾向ではあるが、依然として現場からのニーズは高い。一般企業は、左記以外に194来ている。求人票数が減った一因としては、キャリアス UC へ求人を出す園が増えたことが挙げ

げられ、実質的には人手不足が続いていると考えられる。

なお、求人票数とは、求人票の数であり、求人数ではない。実際の求人数は求人票数の数倍になると思われる。

また、キャリアス UC キャリア支援サイトによる、本学宛求人票数は、令和7年3月卒業生向けが、8980（前年は7974）届いている。内容は企業からの求人が多いが、幼稚園、保育園、施設、公務員等も年々増え、内容も多岐に亘っている。

	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
現役合格	2	4	4	1	2	0	6	5	5
過年度卒	0	1	3	1	0	2	0	2	0
合計	2	5	7	2	2	2	6	7	5

上の表は、公務員試験の合格者数である。令和6年度は5名の合格者があった。（前年度比—2名）

7. 本学への評価

(1) 就職先からの評価 令和6年3月卒業者に対する評価

令和5年度卒業生の勤務状況調査(所属長回答)

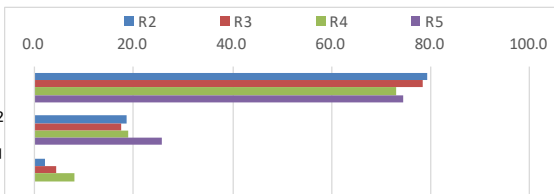
回答率93.5% … 依頼: 38箇所46名分 回答: 35箇所43名分(保27幼認12施設4)

※「令和5年度卒業生」は令和6年3月に卒業した学生(22番代)。

1 出勤状況 (%)

年度	R2	R3	R4	R5
(1)たいへんよい	79.2	78.3	73.0	74.4
(2)ふつう	18.7	17.4	18.9	25.6
(3)努力が必要	2.1	4.3	8.1	0.0

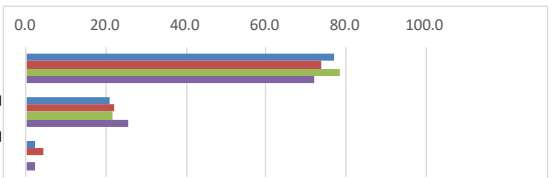
・シフトの勘違いで遅刻があったがその後よく確認し問題無し(施)



2 勤務態度 (%)

年度	R2	R3	R4	R5
(1)たいへんよい	77.1	73.9	78.4	72.1
(2)ふつう	20.8	21.8	21.6	25.6
(3)努力が必要	2.1	4.3	0.0	2.3

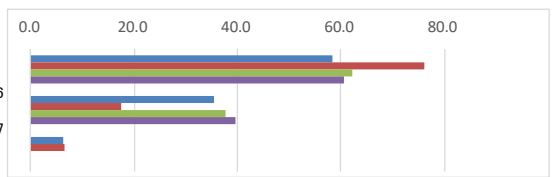
・確認しなかったりネガティブ、マイナスに捉えがち(保)



3 幼児(施設:利用者)への関わり方

年度	R2	R3	R4	R5
(1)たいへんよい	58.3	76.1	62.2	60.5
(2)ふつう	35.4	17.4	37.8	39.5
(3)努力が必要	6.3	6.5	0.0	0.0

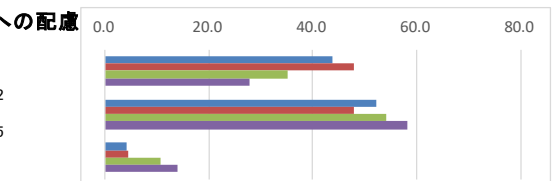
・声かけも積極的になってきた(認こ) ・遊び方や声かけは優しく良いが“寄り添い”“優しい”の捉え方に課題を感じる(保) ・子どもへの声かけをももう少し丁寧にできるとよい(認こ)



4 環境構成力(施設等では環境整備、安全・安心への配慮)

年度	R2	R3	R4	R5
(1)たいへんよい	43.7	47.8	35.1	27.9
(2)ふつう	52.1	47.8	54.1	58.1
(3)努力が必要	4.2	4.4	10.8	14.0

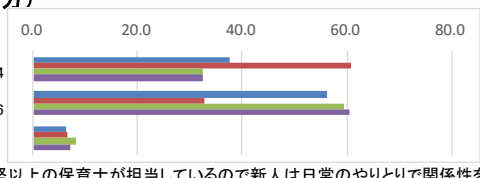
・保育だけでなく準備や片付けなどにも進んで取り組んでほしい(学童) ・発達に合わせた玩具準備、環境設定の知識を今後学んでいくこと(保) ・環境構成や環境設定は中堅とベテラン保育士に任せており今は現状や方針に理解をもらっている。子供達が片付けが出来ない物を投げる等課題に悩みながら頑張っている(保) ・自分では出来ない事が多く主任等に手取り足取り指導されている(幼) ・経験が加算されれば良くなると思う(保) ・保育や製作等の事前準備、一日の生活に対する時間の使い方、見通しをたてられと良い(保)



5 保護者への関わり方(利用者の家族への関わり方)

年度	R2	R3	R4	R5
(1)たいへんよい	37.5	60.9	32.4	32.5
(2)ふつう	56.3	32.6	59.5	60.5
(3)努力が必要	6.2	6.5	8.1	7.0

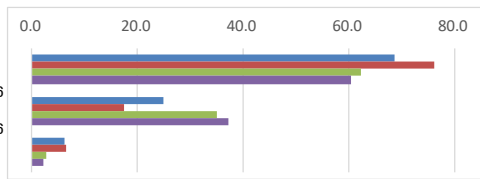
・もう少し丁寧に保護者の気持ちに寄り添えると良い(学童) ・中堅以上の保育士が担当しているので新人は日常のやりとりで関係を築いていって貰っている(保) ・自分で解決出来ず補助の先生や主任に指導されている(幼)



6 他の職員との協調性

年度	R2	R3	R4	R5
(1)たいへんよい	68.8	76.1	62.2	60.5
(2)ふつう	25.0	17.4	35.1	37.2
(3)努力が必要	6.2	6.5	2.7	2.3

・助言をマイナスに捉えてしまうことで相手にネガティブな印象を与えてしまう(保) ・常勤が少ない中担当クラス1人だけの常勤として周囲と良い関係を持っている(保)



7 その他(本学への要望等)

- ① 先輩からたくさん学び、子どもたちの為にどうしたら良いか、一生懸命が張ってくれています(認こ)
- ② 本施設は子供達の入所が増えている。幼児向けのボランティア等今後一緒に考えていけるといいなと思いました。(療育)
- ③ 保育実習では子供と接することがメインとなりますが、実際の現場では生活作りに必要な裏方の仕事も沢山あります。これから社会人になる学生さん方には保育に関わる全ての事に全力で取り組めるようご指導頂きたいです(学童)
- ④ 男性保育士がとても活躍している。次年度もぜひ採用したい(保)
- ⑤ これからの成長を期待しています(保)
- ⑥ 話をきちんと深い所で受け止めている。保健師巡回時に小児科医に疑問点をしっかり聞いてメモしており向上心有る姿に好感を持った
- ⑦ わからない事やすずめていきたい事などを積極的に先輩保育士に聞いているところがとても良い(保)
- ⑧ とても頑張っている。これからも実践の中で様々な事を学んでほしい(保)
- ⑨ とてもよく頑張っている。今後も子どもと共に成長する保育士さんが大勢つよう願っています(保)
- ⑩ 体調を崩す事も無く毎日元気に頑張っています(保)
- ⑪ 保育園と子育て支援センター両方の補助を行って頂いている。支援センター利用者の方々との良いコミュニケーションを築いています(保)※訓練生
- ⑫ 子どもとの接し方が素晴らしく保護者から感謝の言葉を頂いた事があります(保)
- ⑬ 教育実習に来て最も最初から幼稚園で働く気がなく保育園を希望していると言う学生が多く、実習を引き受ける意欲がなくなります。また、基礎学力の低さに驚く事が多いです(幼)
- ⑭ 本園への就職希望者優先で実習をお受け出来たら幸いです(施)

【考察と課題】

○学生指導の課題(教職員・学生に伝えること):

- ①経験不足によるミスや不十分な対応などについては、改善しようと努力する姿勢があれば良いので、失敗した時の気持ちの切りかえ方を在学中に学ぶことが大切。
- ②仕事上の助言や指導をネガティブに捉えたと、成長しにくくトラブルになりがちなので、学生のうちから、友達だけで無く年齢の違う人(バイト先や教職員)と接する場面を増やすと良い。相手の言葉を理解しようとする意識を持つことが大切。授業中に先生の言葉を理解してノートをとることも訓練になる。
- ③ピアノの就職試験は減少しているが、保育者として必要であり、なるべく多くのレパートリーを修得し、練習・上達が重要であることを指導する。
- ④現場で必要となる製作や手遊び、ピアノ(歌)など、卒業後も学んでいく必要があることを伝え、指導する。
- ⑤人との関わり方、挨拶、話し方、コミュニケーション能力(協調性)を高めるため、ワークを用いて学習し、素直に学ぶ姿勢を養う。

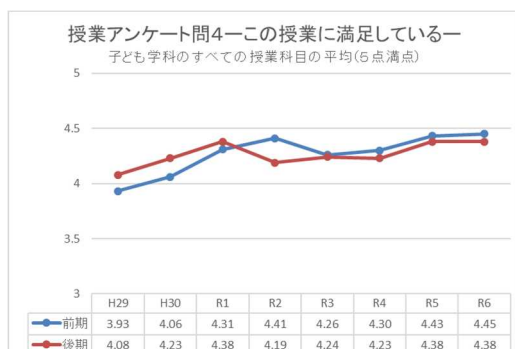
★殆どの卒業生については問題が無く、とても頑張っているという評価だった。

★コロナ後、学生たちは対面での人との接し方について気をつけている様子が伺える、が、職場の先輩や同僚、保護者との接し方について、引き続きワークで学ぶ必要がある。これまで通り、日頃より各場面で教職員が学生とコミュニケーションをとり、協調性・積極性・学び方をも養うよう促していく。

上の表およびグラフは、就職一年目の卒業生に対する就職先からの評価である。おおむね前年と同程度の数字になっているが、環境構成員について年々数字が低下している。準備、後片付け、段取りについて意識的に指導していく必要がある。

現場からは、失敗してもへこたれない前向きな態度や、コミュニケーションスキルについて向上させてほしいとの声があり、引き続き本学教育に活かしていきたい。

(2) 授業への評価



左のグラフは、子ども学科のすべての授業に対して、学生が5点満点で評価する満足度の調査結果の平均である。

令和6年度は、これまでで最もよい数値となった。

昨年度よりも値が回復しつつあるのは、コロナ禍でも実施できる行事のあり方を工夫できた点、それが定着しつつある点が挙げられる。入学

時からコロナ禍の只中にあった学年であるが、コロナ禍での行事、授業のあり方の工夫によって改善の余地があることが考えられる。

(3) 学生満足度調査

令和6年度卒業時本学に関する満足度アンケート				
	令和6年度 回答者数46名 回答率97.9%	令和5年度 回答者数62名 回答率96.8%	令和4年度 回答者数57名 回答率100.0%	令和3年度 回答者数62名 回答率94.0%
問1 本学に入学したことをどの程度満足していますか。	88.7%	81.5%	78.6%	78.1%
問2 いろいろな面での満足度を具体的に聞きます。				
(1)授業についてどの程度満足していますか。	79.6%	76.0%	73.8%	74.0%
(2)実習とその指導についてどの程度満足していますか。	80.2%	80.5%	73.6%	75.8%
(3)体験活動・学習や行事についてどの程度満足していますか。	82.0%	79.2%	71.4%	66.6%
(4)この2年間の自分の成長にどの程度満足していますか。	83.6%	78.2%	81.2%	76.9%
(5)就職できたことをどの程度満足していますか。	92.6%	88.6%	85.4%	85.8%
(6)本学の施設・設備についてどの程度満足していますか。	72.0%	71.9%	69.3%	65.6%
(7)友人との出会いをどの程度満足していますか。	88.3%	84.0%	84.7%	82.4%
(8)先生との出会いをどの程度満足していますか。	92.0%	85.6%	79.5%	79.8%
(9)事務局についてどの程度満足していますか。	88.7%	77.1%	—	—

2025/02/05実施

上の表は、短大全体について卒業生（令和7年3月卒業）に対して行った満足度調査の結果である。全般的に高い満足度であると言える。特に「先生との出会い」「就職できたこと」「友人との出会い」に関して高い値となっている。本学へ入学したことに對する満足度も88.7%と過去最高の値となっている。

令和6年度卒業時本学に関する満足度アンケート 自由記述① 【入学してよかったこと】	
問3 本学に入学してよかったと思うことを記述してください。	
1	自然を活かした授業などを行っていたり、たくさん体験学習したりしてよかった。学生に寄り添ってくれていたのがよかった。
2	ここでしか学べない自然を活かした授業を受けることができた。
3	先生との距離が近い。訓練生の方と仲良くなれた。親身に相談に乗ってくれる。
4	先生たちが明るく何でも話せる環境だった。いろんなことを体験しながら保育について学ぶことができた。
5	先生に出会って縁ができたこと。経験を積めたこと。知識と様々な人間の存在を知れたこと。
6	先生方のサポートが手厚く、本当に助かっています。時折あそびながら思い出をつくりつつ学んでいくのが楽しかったです。
7	保育士になりたい、働きたいからという夢をもって入学したので、安定した就職先も見つかり、夢が叶えられる近道であったと思う。実習を通してたくさん自分が成長できたとも思う。
8	授業の中ですぐに実践につながりそうな遊びの仕方などが学べてよかった。
9	自然豊かな環境がとても良い。実践的に学んだことが今後にいかせると思う。
10	先生方と話しやすい雰囲気や相談などもすぐにできるような関係でいられたので、すごく安心して通うことができました。
11	保育士、幼稚園教諭免許状をとれたこと。思いやりのある同級生たちと切磋琢磨し、無事卒業を迎えられたこと。
12	沢山の学びがあり、もっと学びたかったことがある。
13	自然豊かなので毎日癒された。たくさんの資格を取得できた。先生や仲間など、良い出会いがあった。
14	自然と触れ合うことが増えて今まで知らなかった植物のことを知ることができた。
15	車で通学できること。授業が原則4限であること。少人数で教員との距離が近く、親身に対応してくれること。自然を生かした演習や、地域の子どもたちが遊びに来ること。ピアヘルパーや小児救命などの資格に挑戦できること。キャリア相談に親身に対応してくれること。
16	資格も取れ、知識を深めることもでき、良かった。
17	優しくフレンドリーな先生が多くて良かった。
18	大きい大学だと関わらない友達などがいるけど、少人数なので沢山の人と関わることができた。
19	いろいろ資格が取れたこと。子どもや保育についてよく学べたこと。沢山の友達が出来たこと。
20	教員と友人との出会いがあったこと。多様な考え方や知識を得たこと。
21	大学の学生として生活を送れたこと。新卒の子と仲良く話せたこと。
22	先生と学生の距離が近く相談しやすい。全員の先生が親身になって相談を聞いてくれた。同級生のレベルが高くてたくさん学ぶことができた。仲間ができた。辛いときも乗り越えられた。
23	学生一人ひとりに寄り添った指導方法で、とてもよかったと思います。全体的に優しい方が多くて嬉しかったです。2年間ありがとうございました。
24	他の大学に比べて自然に対する理解や生き物への思いが深まったと思う。
25	2年間友達に恵まれ楽しく授業を受けることができました。
26	就職や実習への支援がとても充実していたこと。周りの友達と同じ夢に向かって支え合って頑張れたのがとてもよかった。
27	今までに知らない事を学べたり、色々な人に支えられたりして、自分の成長にもつながった所が良かったです。
28	ジャージで通える。車で通える。
29	先生方が親切で、一人ひとりの学生と丁寧にしかかわって指導してください。優しい人、穏やかな人、元気な人が多い。自然が豊かで遊びできるキャンパスがとても良い。実習の時に先生が細やかに指導してくださる、実習中も応援してくれる。
30	ポップコーン食べた。
31	草木に詳しくなれた。蚊とヘビが見れる。
32	周りの人たちと切磋琢磨して授業、実習に取り組めたことが良かった。困ったときに先生と相談できて安心した。
33	普段の学生生活すべてを含めて山短に来て良かったと思いました！本当に毎日楽しくて、2年間があっという間でした。最高の他大学生LIFEを遅れて大満足です！素敵な友達と先生方に出会えて幸せでした！！
34	授業のなかに遊びも含まれていて楽しかった。保育について学べた。
35	国家試験勉強では含まれない浮上に大切な知識・技能が実習をはじめとする演習や講義で養えること。2年間で確実に幼・保資格が取得できること。ネーチャーゲームリーダー、キャンプインストラクター等が保・幼資格以外に取得でき、保育者としての引き出しが他の大学より増えること。
36	ヨーフラなどで子どもたちと関わり、授業内で子どもに向けた内容のかんがえることができてよかったと思います。また、実際に外へ出て、模擬散歩しながら植物を学ぶことができてよかったです。
37	友だちが増えた。
38	自然がいっぱい。
39	仲間に出会い、保育者に必要なスキルを学べた。
40	教員と学生との距離が近い。少人数なので顔を名前を覚えやすい。
41	良い友達ができた。
42	自然が多く、他の大学では学べない事も学ぶ事ができるところ。先生方も事務局の方もフレンドリーで親しみやすいところ。
43	仲良い友達や優しい先生方に出会えたこと
44	ゼミを前期と後期で違うものを体験、学ぶ事が出来たこと。保育に関する事を自然の環境を利用しながら活動の幅が増えることを学ぶことができたこと。1年と2年でクラスが4変わりたくさんの友達ができたこと。
45	色々な友達ができた。
46	友だちができた。

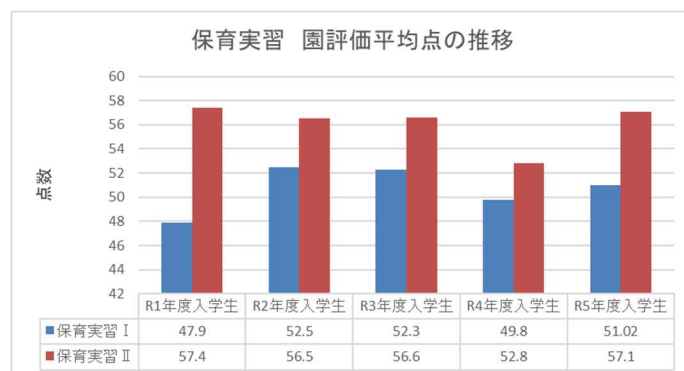
令和6年度卒業時本学に関する満足度アンケート 自由記述② 【改善するとよいこと】	
問4 改善するとよいと思うことを記述してください。	
1	冬はとても寒く。暖房がない部屋は改善したほうがよい。
2	実習先の変更をOKにする。
3	冷暖房。Wi-Fi。
4	乳児保育の授業を改善したほうがよいと思います。
5	特になし。
6	仕方がないことかもしれないが立地が良くないと思う。また、空コマの時間があるようなら丸1日休みの日を作ってもアリだと思った。
7	もっとベビーカーとか車いすの人が動きやすい後者になるといいと思います。
8	洗面台に設置してある液体せっけんは、ほとんどの場所で出ません（使えない）、点検をお願いします。芙蓉館はカビだけです。Edu-Naviのアンケートは記入しても改善されないの、後半は記入しないことにしました。意味ないと思うので。
9	せっかく山の中にある大学なので、坂道など外で行う行事や授業があると自然豊かな環境を生かすことができるとよいのではと考えます。
10	冬は寒く、夏は暑いこと。段差が多く歩き辛い。2階以外のトイレの改善。
11	特になし。
12	夏は暑い、冬は寒すぎるなど、エアコンなどでもっと対応してほしい。
13	一部の先生方の資料が（古く）、アップデートして最新の情報を教えて欲しい。先生間の伝達をスムーズにする必要がある。
14	図書館がうるさくて、勉強・読書の環境にないこと。夏暑くて、冬寒い。空調が古めかしい。Wi-Fiが事務局前とカフェテリアしか使えないこと。
15	空調設備があまりによくなく、寒かったりすることがおこったので改善すると良いと思う、
16	暖房、冷房をもう少し使いたいです。
17	空調設備。
18	実習の時期や場所が選べるとよかった。合わない実習先を変更できるとよかった。幼稚園実習を2週間ずつにしてほしいかった。
19	和式トイレをなくす事。1Fの雨漏りがすごいので直した方がよい。スケジュールが過密なので、少し行事を少なくしたほうがよい。
20	部屋を快適にしてほしい。実習指導をあまりしてくれない先生がいたので、グループによってバラツキがないようにしてほしい（仲間がかわいそうだった）私は室井先生と橋先生にしっかり指導してもらえた。
21	Wi-Fiがもっと使えるようになると思います。
22	暑くて寒いところ。
23	各教室にエアコンを設置して欲しい。鳩山は暑い。
24	ないと思います。虫がちょっと無理です。
25	階段が多い。寒い・暑い（空調）。行事が少ない。
26	特になし。
27	Wi-Fiを学内全体に設置して欲しい。冷暖房をゼ(フ)ン教室に設置して欲しい。
28	最高の大学なのでないです。あるとしたら虫。
29	階段が多い。寒い・暑い（空調）。行事が少ない。
30	学生に失敗させないところ。実習は担当の関わり方、オリエンでの園への礼儀、施設の使い方など等始まる前にアナウンスできることはしっかり伝えて欲しい。（実習2日目男子トイレの使う場所を教えられた）
31	特になし。
32	毎日2限からにしてほしい。
33	ない。
34	エアコンの効き悪し。
35	（携帯の）電波が悪いところ。
36	カフェテリアが寒い。
37	冷房。
38	今の1年生、2年生両方にあるけど、気に食わないコトがあって人をハブったりするのは保育者志望の人がやることなの？って思っているの、そのところなんとかしてほしいな～って、先生方にもくだらないコトやけど指導おねがいします！！
39	教室の中が寒いことが多い。
40	ちょっと寒い。芙蓉館、電波悪い。
41	階段多すぎ、ちょっと寒い、電波悪い。

自由記述においても、教員との関係、友人との関係、豊かな自然などでの満足度が高く、本学の大きな強みとなっている。

改善したほうが良い点では、室内の温度調整、Wi-Fiの強化、一部授業のやり方、教員

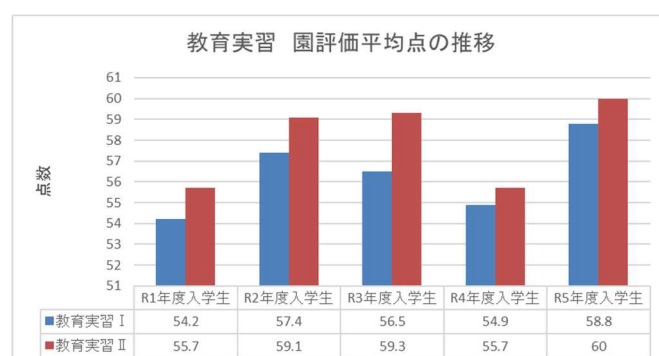
間のコミュニケーション不足を指摘する声があった。また最近の声として、「1限目の授業はなるべく少なくしてほしい」とか「空き時間をなくしてほしい」など、タイムパフォーマンスに関する指摘も散見されるようになった。

(4) 実習での評価



左の表は、保育実習（1年生時に保育実習Ⅰ、2年生時に保育実習Ⅱを実施）に対する、園から学生への評価点の平均値を学年ごとに示したものである。評価項目の主な内容は、実習態度、保育者としての資質、指導力などである。1回目よりも2回目の実習のほうが確実に点数

が上がっているのがわかるが、1回目実習の値は、年によって変動がある。



左の表は、教育実習Ⅰ・Ⅱに対する園からの学生への評価点の平均値を学年ごとにまとめたものである。令和5年生については例年以上に数値が高くなっている。

8. 行政の施策

(1) 埼玉県子育て応援行動計画

埼玉県全体では、令和7年度より「埼玉県子ども若者計画」を5年計画で策定し、保育の受け入れ枠の確保、認定こども園の整備、小規模保育事業等の連携施設の確保、延長保育の実施、保育人材の確保、保育環境の向上などについて保育施策の充実を予定している。

(2) 高等教育無償化

令和2年度から、高等教育の無償化が導入された。住民税非課税世帯を中心に年収270万円以下から380万円以下までの世帯が対象となる。本学は、令和元年度から高等教育無償化の対象となる短大として認可されている。

(3) 幼児教育無償化

令和元年10月から幼児教育・保育の無償化がスタートした。子どもを預ける世帯が増え、現場での保育士、幼稚園教諭への採用ニーズは高くなると予想される。

9. 財務状況

(1) 概要

入学者数の減少により財務状況は極めて厳しい状況にある。令和6年度も、私立大学改革総合支援事業 type3 の補助金は獲得できなかった。人件費について、事務局員の人員の削減、再雇用により支出の抑制をしてきたが、入学者数の減少に伴い経常費補助金が減少し、経年の劣化による施設設備の修繕にかかる費用が増加したこと等により、学園から3,000万円の資金援助を得てもなお、全体の収支はかなりの支出超過となった。翌年度繰越金は、R5年度が5400万円、R6年度が約4100万円であった。

(2) リスクシナリオの作成

短大の運営に関して、資金ショート、募集停止といったリスクを想定し、財務的な指標や年度内の資金ショートなどを運営継続の有無の判断基準としたリスクシナリオを作成した。

(3) 人件費

人件費は、最少人数である専任教員11名である。事務局員はR2年度から1名マイナスとし、専任職員5名とした。また、一時金は2.5か月とした。令和6年度は、再雇用制度、基幹教員制度を活用した。

(4) 施設・設備更新

補助金制度を活用して一部冷暖房の更新を行った。PCについては、山村学園高

等学校で使用していた４０台ほどを短大で整備し使用した。

(5) **その他の経費削減**

電気代については、デマンド方式の契約を継続しており、毎時間ごと電力消費を観察しながら、節電につとめた。

10. 令和6年度（2024年度）事業計画一覧表

	令和6年度（2024年度）	
学生募集 ・目標値	- 翌年度入学者の数100名を基準。 - 資料請求数800（入学者を資料請求数の10%とした場合）。3年生以上の実質参加者数90名。 - 志願者数70名が目標。	×47名 ×610名54名 ×48名
学生募集確保	- 小学校教諭免許、特別支援学校教諭免許が取得できることの効果的広報。 - 入試方法の見直し。総合選抜入試第1期受験者を特別優遇措置対象者とする。「合格パスポート」の発行。 - 児童養護施設出身者、検定料免除 - 外国にルーツを持つ学生の受験機会を明示する。 - 遠隔地からの受験者の検定料3万円を免除し、下宿をする学生へは月1万5千円の賃貸補助を行う。 - コンサルタントの活用。 - SNSの活用。新たにTikTokを含めたSNS広報の活用。 - 職業訓練生の募集 - ホームページ、ランディングページの活用。 - 新たなプロモーション動画の作成。 - 公民館等に履修プログラムの案内を配布する。 - コンビニにおいても広報できないか検討する。 - 近隣の高等学校や地域の市町村との教育包括協定に基づき、地域貢献するとともに高校生、中学生、小学生が本学に訪問する機会を増やす。 - その他高校側のニーズを開拓（定時制高校、通信制高校などへのアプローチを強化） - 保育者に対して、待遇面についてのデータを作成したり、各自治体等が取り組んでいる補助金制度などをまとめたりし、本学から積極的に情報発信する。 - 高等学校への出前授業の強化。特に家庭科の授業の中で出前授業を展開し、本学の認知度を高める。家庭科では保育に関する授業内容で短大、大学での学びについて紹介したいというニーズがあり、それに応えることで地域への貢献も図る。 - 中学校、高校のPTAへのアプローチ。在校生に行ったアンケートによると、親からの勧めで入学している者が一定割合いることから、地元での認知度を高めるため、中学校約40校、高校約20校の目標値を掲げ、PTA役員へのアプローチを展開する。 - 学生によるSNSサイトの運営、PR。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○一部で実施 △地元子供大学 ○ ○ ○ ○
経常費補助金・私立大学等改革総合支援事業	- 経常費補助金の確実な獲得。 - タイプ3で600万円の獲得を目指す。	△ ×
教育内容の見直し。 コンセプトの点検	- 学科定員の点検。 - 合理的配慮の具現化。 - 新たな資格免許の導入の検討。 - SDGs、自然環境保護、福祉。気になる子への対応の研究。公的機関との連携。 - フィンランドの保育の研究。	○50名へ減員 ○ ○前年継続 ○ △
卒業までに身につけるべき学習成果について	- 設定された学習成果をもとに、そのチェックの仕方を確立。ディプロマサプリメント。 - カリキュラムツリー、ポートフォリオの運用定着。	△ ○
授業の質の向上	前期、後期ともに問四4.0以上を目標とする。	○
少人数教育の深化	- 学生の顔と名前を覚える。 - 個別指導のしくみの充実。 - 満足度調査において、友人との出会い、先生との出会いが90%以上になることを目標とする。	○ ○個別学修サポート ○
実習	- 保育実習Ⅰは50点以上、保育実習Ⅱは55点を基準。 - 教育実習Ⅰは55.0、教育実習Ⅱは58.0を基準。	○ ○
SDGsに向けた保育の実践	- Natural 保育検定基礎編合格者数について、1年生全員の合格を目指す。 - Natural 保育検定応用編合格者数について、2年生全員の合格を目指す。 - その他、SDGsに関わる取り組みの洗い出し。	△ △ ○
生活指導	退学者防止。退学者0を目標。	△
進路指導	- 就職希望者数を母数とした就職率 100%以上を目標 - 公務員試験合格人数5名以上 - 就職先からのアンケートで「たいへんよい」の割合が、出勤状況80%、勤務態度70%、幼児への関わり方50%、環境構成力40%、保護者への関わり方35%、他の職員との協調性60%を目標	○ ○ △ 3/6
施設・設備	冷暖房設備の改修。その他老朽化に伴う対応。	○
学生満足度調査	入学への満足度80%、就職への満足度85%、授業への満足度75%、実習への満足度75%、体験学習への満足度80%、施設設備への満足度70%、先生との出会いへの満足度85%、友人との出会い90%、自分の成長80%を目標	◎
人件費	- 教員数については最少人数で臨む。 - 事務局員数は現状維持。 - 賞与等の調整	○ ○ ○